

事業番号	02 02 09	事業改善シート（28年度実施事業分）		<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	未来のICT人材育成支援事業費			担当課	部局	企画振興部	
					課・局・室	情報政策課	
					E-mail	joho@pref.nagano.lg.jp	
総合5か年計画	プロジェクト	5-1 高速交通・情報通信ネットワークの充実 4 地域情報化の推進		実施期間	H27 ~ H32		
人口定着・確かな暮らし実現総合戦略	信州創生の基本方針	4-3 信州創生を担う人材の確保・育成					
	施策展開	3-(1) 経済構造の転換 イ 地域資源を活用した自主的な経済構造の構築 (イ) サービス産業の振興 3-(2) 経済の自立的発展を支える担い手の確保 イ 県内産業が必要とする人材の確保・育成					

1 事業の概要

目指す姿	未来を担う子供・若者にICT利活用の素養と感性を身に付ける機会を提供することにより、多様な産業分野で活躍できる高度なICT人材を育成し、創業の促進及びICT企業の集積を図る。										
現状（予算編成時）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 企業におけるICT人材の不足（リーマンショック以降増加傾向） ICT人材不足と感じている企業の割合：87.4%（出典：独立行政法人情報通信処理推進機構「IT人材白書2015」） ■ 長野県ICT活用戦略を策定（H27.3）し、ICT人材育成を取組の柱に位置付け ・県内外の小中学生を対象に、長野県の自然のなかでICTを活用したモノづくりの楽しさを体験できる場を県域全体で提供することで、これまでにない新たな価値創造と未来を担うクリエイティブな人材を発掘・育成 ■ 世界最先端IT国家創造宣言（H27.6閣議決定） ・初等・中等教育段階でのプログラミングなどの教育の充実 ・IT習得の意識高揚の観点から、プログラミングコンテストなどの競技会を推進していくことも重要であり、関係省庁の後援や大臣賞の付与等を行う。 										
県が関与する理由	県でなければ実施不可（その他）	【左記の説明、根拠法令等】 地域社会や産業で必要とされているICT人材の不足を解決するため県が主導して若年層を対象としたICT利活用の素養と感性を身に付ける機会を拡大しICT人材育成を推進する必要がある。									
成果目標・事業内容	① 成果目標（H28） 若年者向けアプリケーションコンテストの実施及び県内の子ども・若者向けICT人材育成事業に対する補助により、未来の長野県を担うICT人材の育成を支援する。数値目標：30作品（H27実績の2倍）、200人（事業者数10×参加者数20人程度を想定）。										
	② 事業内容 （単位：千円）										
		項目	実施方法	H28事業実績		H29					
				（当初）	（決算）	（当初）					
	信州未来アプリコンテスト0（ZERO）開催費	直接	・学生及び若手ICTエンジニアを対象に、スマートフォン等で動作する自作のアプリケーションやそのアイデアを競うコンテストを開催	798	760	798					
	ICT人材育成事業補助金（子どもプログラミング教室開催事業補助金）	補助金	・若年層（主として初等・中等教育段階）を対象としたICT人材育成事業（サマーキャンプ等）に対して補助 ・補助先（大学・学校法人・民間事業者等）	2,560	2,495	2,560					
	合計		3,358	3,255	3,358						
事業コスト	区分（単位：千円）	27年度	28年度	29年度	成果目標の達成状況						
	前年度繰越				項目	H26末	H27末	H28		H29 目標	
	当初予算		3,358	3,358				目標	成果		達成状況
	補正予算				アプリコンテスト参加応募作品数	-	15	30	18	未達成	25
	合計（A）	0	3,358	3,358	ICT人材育成事業参加者数	-	-	200	380	達成	300
	一般財源		3,358	3,358							
	県債										
	国庫支出金										
	その他	0	0	0							
	決算額（B）			3,255							
概算人員数			1.00	1.00							
概算人件費（C）	0	7,914	7,914								
概算事業費（B(A)+C）	0	11,169	11,272								
目標に対する成果の状況	<p>信州未来アプリコンテスト0（ZERO）については、小・中学生部門を新設し、募集の周知を充実させた結果、応募件数は前年度より3件増加したが、実機によるアプリのデモを行うことを必須としたことが影響し、目標件数には及ばなかった。</p> <p>ICT人材育成事業（子どもプログラミング教室開催事業）については、当初想定を上回る箇所数及び参加者数を支援することにより、目標を大きく上回る参加者数となった。</p>										

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施
	引き続き周知、広報を行いつつ、民間事業者等との連携強化を図り、県内における若年層のプログラミング教育機会の拡大を目指す。